

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2094000136	
法人名	株式会社 北アルプスの風	
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ほっとハウス・ほたかの家	
所在地	長野県安曇野市穂高柏原2831-26	
自己評価作成日	平成27年1月22日	評価結果市町村受理日 平成27年4月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成27年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ほっとハウス・ほたかの家の基本理念として「おひさま暮らし」がある。私たちは「おひさま」のような温かいホーム、「我がまま(自分らしく)でいい」暮らしの実現を目指している。私達職員は挨拶や声掛けから始まるケア技術・知識・心の質の向上の為に、日夜研鑽を惜しまない。またご利用者のP、Pride(プライド)Private(プライベート)Personality(パーソナリティ)に配慮し、施設側・職員側のベース優先ではなく、利用者本位の介護を心掛けている。私たちは、笑顔の絶えない真心が通い合う日々と、ご家族や地域と繋がって行けるホームを築いていくために、ここほたかの家で一緒に暮らしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

わかりやすく温もりを感じさせる理念が、毎月の施設「たより」に継続して掲載されている。見る人は「ほっとハウス・ほたかの家」がどのような「暮らし」の場を目指しているかを知ることができる。中庭や天窓から差し込むお日様の光を受けて、落ち着いた色調の生活空間のたたずまいには穏やかな「暮らし」に時間が流れている。事業所は、様々な経験と研修を積み重ねている管理者と職員が一体となって、利用者本位の「暮らし」のケアを、より質の高い目標に向かって提供すべく取り組んでいる。また、「危険予知訓練ノート」を通じての学習にもみられるように「安全安心な暮らし」がその中にある。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(れんげ)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(すみれ)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>基本理念「ほっとハウスのおひさま暮らし」を玄関、事務所に掲示し共有出来るようにしている。また、全体会議、内部研修、個人面談等折に触れて理念について確認しあっている。</p>	<p>理念を明示した言葉が玄関に掲げられ、更に毎月発行される「すみれ、れんげ」のたよりに継続的に掲載し手理念を着実に周知し実践していこうという姿勢がある。全体会議においても理念が常に確認されている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に加入し、声を掛けて頂く機会も多くなり地区の防災会議、訓練そして清掃への参加などをさせて頂いている。また、近隣の保育園、障害者施設等の交流、夏祭りには大勢の参加があった。</p>	<p>「ほたかの家」の夏祭りには地域の人、とりわけ多くの子供たちの参加あり、家の前の広い駐車場で夏の宵を家族や地域の人と一緒に楽しまれている。自治会にも加入して地域との交流に努めている。入居者は近隣の保育園児の来訪も楽しみにされている。</p>	<p>地域ボランティア受け入れをより活発にして、地域との交流を増すとともに入居者に楽しさと変化のある暮らしをさらに提供していかれるよう検討が望まれる。また、子ども「安心の家」への登録等により更なる地域との結びつきに期待する。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の方との繋がりを大切に見学者、ボランティア等折に触れて認知症の理解、悩みや支援方法等話をしている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヵ月毎の会議には施設の現状等を説明し意見、要望、アドバイスを頂き、職員に繋げサービスの向上に努めている。時には行事、食事、職員との面談をして頂き、又災害時、離脱等リスクの支援対策についても意見を頂戴している。</p>	<p>定期的な開催時に利用者の暮らしの様子や行事について連絡と報告がなされている。時には消防署からの参加もあり臨機応変に会議が運営されている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>認定調査時及び運営推進会議の機会等に事業所の日頃の様子をお知らせしたり、市より意見、情報を頂いている。</p>	<p>様々な機会を通じて互いが持つ情報を交換し理解と協力が図られている。市の介護保険担当者が運営推進会議にも参加している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全体会議、研修、ケア場面に於いても身体拘束禁止のケアについて取り組んでいる。玄関の施錠についてはしない事を基本とし、やむを得ない場合は職員連携の中で開放に努めている。</p>	<p>全体研修等を通じて理解を深め行動している。離接が懸念される入居者に対しては在所の確認を絶えず行い、事態の発生を未然に防ぐよう努めている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止・関連法について研修会を設け意識を深め防止している。入浴時等外傷がないかチェックし、報告、原因の明確化に努めている。</p>			
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>個人研修は受けているも、制度の理解は職員までは入っていない。日常生活自立支援事業や成年後見制度については必要時社協や市の担当者等と話し合いを持っている。</p>			
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にはきちんと説明し不安や疑問点については理解し納得頂けるよう心掛けている。入所後に於いても疑問や質問事項には常に説明に応じ理解して頂いている。</p>			
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時、介護計画の説明時、年1回の家族会の折に意見、要望等を伺い内容に反映させるよう心掛けている。</p>	<p>家族は「ほたかの家」での入居者の暮らしぶりを、職員の対応を含めて好感をもって評価している。家族の訪問時にも意向を伺うようにしている。</p>	<p>ご家族の意見の中にも、「ほたかの家」の看板を通りに面したところに出してほしいとの要望も聞かれている。地域への認知度を高めるためにも、事業所の看板表示の設置についての検討が求められる。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年2回の個人面談の折にアンケートを取り自由に意見が言える内容と環境に努めている。全体会議の中でも自由に言える時間を設けている。代表者の理解がある。</p>	<p>代表者や管理者は全体会議へ欠かさず出席して職員の意識と意見を理解するように努めている。職員は日常の業務の中でも、会議の場でも自由に発言し理念の実践に取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有資格者には資格手当、ユニットリーダーには職種手当を付けている。また、それぞれの職員の実情により希望休みを入れるように対応している。努力に応じて特別賞与を支給している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行っている。研修テーマは介護現場で必要な研修はもとより時事的に当該ホームで必要とされる内容の研修を行っている。また、外部研修にも参加できるような機会を確保している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当社グループの事業所の職員との交流を図ったり、外部研修などで他事業所の方との意見交換を通して積極的に話しを行うように心掛けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には本人に施設に来て頂くよう計らい困っている事、要望等をお聞きしている。入所後1か月程は特に様子を見守り関係性を大事にし、気持ちを引き出せるよう努め情報の共有化を図り、安全、安心感に繋げている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の不安、要望等を納得するまで良く聞き信頼関係が築けるよう努め、安心して利用できる取り組みに努めている。希望により契約前のお試し期間を設け、家族等の安心感に繋げている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時などに現況等を十分聞き利用者、家族の求めている事は何かを把握し状況により、他機関の紹介も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑顔を大事に、利用者主体「自分らしく」を合い言葉とし、寄り添い、時にはさりげない支援をし穏やかな暮らしが保てるよう利用者との関係性の築きに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状況を報告したり、毎月の「ユニットだより」に活動内容を掲載し、担当より個々の近況を添えている。状況等により相談、面会をお願いしている。安心の暮らしには家族の協力は不可欠であることを伝えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や馴染みの方との関係が途切れないようまた、何時でも来て頂けるよう開放し支援している。年賀、カラオケ、食事等楽しませている。	面会者はいつでも迎え入れ、知人や家族の面会に加えて継続するボランティアとの楽しみな交流を続けている。外食時にも馴染みの店で馴染みの料理を注文している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、和やかな、居心地の良い交流が自然にできるよう配慮し、雰囲気づくりに努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	会う機会があった時など、失礼にならない様に状況を伺ったり、相談に乗るなど関係が継続されるよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常の会話、生活状況の中から又、家族の面会時等に現在の生活についての思いや希望を伺い、アセスメントをしカンファレンスを通じて本人本位のプランに繋げている。	日常生活の中から入居者の思いを推しはかりそれをプランに活かすよう努めている。	日常生活の中思わず言葉として出てくる入居者の言葉の中に、その人の思いが刻まれていることがある。それを職員間で共有しケアの質を高めていく為の糧となるように記載していく工夫(つぶやきノート等)に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時特に家族に協力頂き、基本情報やアセスメント情報としての生活歴、趣味などを聞かせて頂きこれまでの暮らしの継続性とニーズの把握に努めている。又面会者等からも本人の希望などのヒントを得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送り時に一人ひとりの様子について確認しあっている。また毎月のユニット会議においてケースカンファレンスを行い情報を共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画・目標は日々実施状況を記録し、毎月ユニットリーダーにより評価し、3か月毎カンファレンス、モニタリングを行い、6か月毎ケアプランの更新をしている。家族には面会時に希望等を伺いプラン作成後説明し同意を頂いている。	利用者、ご家族の意向や希望を把握して、カンファレンス、モニタリング、プランの更新は適宜実施されている。ご家族にも面会時等を通して適切に伝えられている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録やケアプランの実施記録には日々の様子や気づきを書き入れ、情報を共有し、介護計画の見直しにも役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との関わり等、本人の要望、思いを優先している。業務に支障が有る場合は職員間の連携により業務内容の調整を図り臨機応変に対応できるよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治区の公民館活動に参加し防災訓練、地震体験など安全な暮らしに協力頂いている。散歩しながらの保育園との交流、途中の挨拶、野菜のお裾分けなど楽しみとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に主治医の選択をして頂き、何時でも変更できる。専門科については主治医より紹介して頂き、適切な対応が図られる。定期的な往診の外、通院により受診の方もある。通院の付き添いは原則家族、状況により職員が当たる。</p>	<p>近隣の医院の医師、看護師との良好な協力関係のもとに、入居者の健康状態が把握され定期的に往診を受けている。必要に応じて専門病院への受診もなされている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医院より週1回の訪問看護(サービス)をして頂いている。訪問日以外でも快く相談に乗って頂き必要であれば訪問して頂き安心して繋がっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時本人の情報提供を行い安心して治療できるよう支援している。面会に行ったり必要に応じて家族、医療機関との情報交換を行い、退院の目処についても病院と確認し合い、早期に退院ができるよう相談に努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化や看取り指針について説明し同意を得ている。その後の状況により必要に応じて再度同意書を頂く。職員研修として指針の読み合わせにより認識を高め、又看護師より介護方法・留意点等受け看取り介護等に備えた。</p>	<p>重度化時の指針と看取りの介護に関する同意書が作成されている。事業所での看取り経験を既に2件重ねて、暮らしの中で終末期を迎えられる体制を確立している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年間研修計画の中に急変、緊急時の対応について盛り込み、又折に触れ説明等の機会を持っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回昼夜想定避難誘導訓練を行い、内一回は消防署員に評価及び初期消火、緊急時の通報等講習を受けた。外年1回は自治区共同の地震想定避難誘導訓練に参加、また地震体験等も参加。今年は災害時の備蓄を進めた。</p>	<p>年2回の定期的な消防訓練の他、地区の地震訓練への参加もある。燃料を始めとして災害時の備蓄も確保されている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	公平な対応で日々気持ちよく生活して頂けるよう、折に触れて職員間で共有している。特に職員の個々の表情や声掛けを重視し、日常の暮らしの中にもプライバシーに配慮し、プライドを傷つけない対応を心掛けている。	職員は様々な研修に参加して学習を積み、入居者の尊厳と尊重に対して真摯に取り組んでいる。言葉づかいには特に心をかけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けについて命令調・肯定的な言葉でなく「はい」「いいえ」で応えられるような言葉掛けをするように研修会、会議の時などに折に触れて確認している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本理念の補足にある(我がまま(自分らしく)でいい)の中の4つの思いが謳われている。それを常に念頭に置きその人らしい暮らしの基としている。利用者のペースに職員が合わせる支援に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの衣類は自分で選んで頂いたり、おしゃれ、化粧をしていた方には今までの生活の習慣の継続を支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から方付けまでできる所は利用者と職員と一緒にやることを基本としている。食器拭き、配膳、下膳等役割りという意識を持って参加されている利用者が多い。	「暮らし」の中での大きな楽しみの食事に関して、準備から下膳までできる範囲での入居者の参加がある。季節食の楽しみ、外食の楽しみも提供している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの希望、状況に併せた食事の摂取量水分量の確認をし必要に応じてチェック表に記入し経過観察をし食事形態等に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>一人ひとりの口腔状態や能力に応じたケアを行っている(個別のケア方法を確認し職員で徹底)。毎食後声掛け誘導をしている。週2回以上入れ歯洗浄剤を使用し清潔効果を高めている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>個々人に応じた排泄方法、場所、時間、介助方法を職員間で話し合い共有している。訴えの分からない方にはチェック表や申し送り等から排泄パターンを把握し誘導し、不快な思いの軽減に努めている。極力トイレ排泄を促している。</p>	<p>排泄はトイレで行うとの互いの意識づけがありオムツの常用者はいない場所の表示がトイレを大きめに、便所と廁の字を小さめにと馴染みの言葉を添えた心遣いが見られる。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便チェック表を細目につけ状況により医師の指示による薬のコントロールを取り入れながら野菜、海藻類、ヤクルトなど食材等の配慮、また、水分摂取、体操など極力体を動かして頂くよう声掛けをし便秘予防に努めている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>利用者の希望を確認しバイタルチェックを行い入浴して頂いている。週2回以上を原則とし午後入浴をして頂いている。拒否がある場合は声掛けに工夫をしコミュニケーションを図りながら本人に寄り添った支援をし、楽しんで頂いている。</p>	<p>夕方の入浴は「暮らし」を大切にしている。ゆったりとした浴室の空間とゆっくりとした入浴の時間がある。季節の湯の楽しみも実施している。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夕食後の就寝時間は自由である。一人ひとりの思いで居室に入り休まれるよう支援している。夜間不穏、徘徊等不眠が見られる方へは、その原因等を話し合い、日中の活動量を増やす等改善に努めている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の変更等があった場合は医院からの説明と薬の説明書を参考に理解の徹底を図っている。飲み忘れ、誤薬の無いよう職員が2人で確認し配薬から服薬まで3回確認し特に服薬時は名前、日付を確認し飲み込むまで見守っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、趣味、嗜好、習慣を参考に得意分野を取り入れるなど、気分転換を図る事で生活の張り合いに繋がるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望に沿うよう季節に合わせて、外食を楽しみながらの遠出外出をしたり、天気の良い日は敷地内の広場の散歩を楽しんで頂くよう努めている。	日当たりのよい敷地内の散歩を行なっているが、秋以降近くに熊の出没があり敷地内の散歩は控えている。紅葉見物に外食にと外出の機会を設けて楽しませている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は本人の希望により所持されている方もある。多くの方の小遣いは施設で預かっている。本人、家族の希望により使えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話を繋ぐようにしている。携帯電話を持参されている方も有る。年末には年賀状を書き職員と共にいき、家族に送っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間を通じて快適な温度設定と自然の電灯色にこだわりを持ち、目に優しい照明、夜間廊下に出ると明るく点灯し不安感、転倒回避に繋がっている。ホールには季節感を取り入れたぬり絵、折り紙など利用者の作品や写真を飾っている。	中庭と天窓からの自然の光は居心地良い共用の場を照らしている。壁には作品が適度に飾られて入居者が共有する場であることが大切にされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で話をしたり、ひとりの時間を気兼ねなく過ごされる方等、思い思いに過ごして頂くような、場所づくり、雰囲気づくりに努めている。隣のユニットとの出入りは自由で`お隣さん`的関わりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活の継続性を大事にし、馴染みの有る家具、調度品を持ち込み利用者、家族の思いにより居室内の配置をして頂く事を原則として居る。寝起きもベッドの方も和式の方も同様である。	居室には在宅での暮らしを共にしてきた小さめの家具が置かれて、引き継ぐ暮らしの温かさを醸し出す空間を見ることができる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレは分かり易く大きな文字(絵)で表示している。自室の入口には表札を掲げ入口の壁には本人の描いた絵、写真等で分かり易く覚え易い工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>基本理念「ほっとハウスのおひさま暮らし」を玄関、事務所に掲示し共有出来るようにしているまた、全体会議、内部研修、個人面談等折に触れて理念について確認しあっている。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に加入し、声を掛けて頂く機会も多くなり地区の防災会議、訓練そして清掃への参加などをさせて頂いている。又、近隣の保育園、障害者施設等の交流、夏祭りには大勢の参加があった。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の方との繋がりを大切に見学者、ボランティア等折に触れて認知症の理解、悩みや支援方法等話をしている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヵ月毎の会議には施設の現状等を説明し意見、要望、アドバイスを頂き、職員に繋げサービスの向上に努めている。時には行事、食事、職員との面談をして頂き、又災害時、離脱等リスクの支援対策についても意見を頂戴している。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>認定調査時及び運営推進会議の機会等に事業所の日頃の様子をお知らせしたり、市より意見、情報を頂いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議、研修、ケア場面に於いても身体拘束禁止のケアについて取り組んでいる。玄関の施錠についてはしない事を基本とし、やむを得ない場合は職員連携の中で開放に努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止・関連法について研修会を設け意識を深め防止している。入浴時等外傷がないかチェックし、報告、原因の明確化に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人研修は受けているも、制度の理解は職員までは入っていない。日常生活自立支援事業や成年後見制度については必要時社協や市の担当者等と話し合いを持っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはきちんと説明し不安や疑問点については理解し納得頂けるよう心掛けている。入所後に於いても疑問や質問事項には常に説明に応じ理解して頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、介護計画の説明時、年1回の家族会の折に意見、要望等を伺い内容に反映させるよう心掛けている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個人面談の折にアンケートを取り自由に意見が言える内容と環境に努めている。全体会議の中でも自由に言える時間を設けている。代表者の理解がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有資格者には資格手当、ユニットリーダーには職種手当を付けている。また、それぞれの職員の実情により希望休みを入れるように対応している。努力に応じて特別賞与を支給している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行っている。研修テーマは介護現場で必要な研修はもとより時事的に当該ホームで必要とされる内容の研修を行っている。また、外部研修にも参加できるような機会を確保している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当社グループの事業所の職員との交流を図ったり、外部研修などで他事業所の方との意見交換を通して積極的に話しを行うように心掛けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には本人に施設に来て頂くよう計らい困っている事、要望等をお聞きしている。入所後1か月程は特に様子を見守り関係性を大事にし、気持ちを引き出せるよう努め情報の共有化を図り、安全、安心感に繋げている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の不安、要望等を納得するまで良く聞き信頼関係が築けるよう努め、安心して利用できる取り組みに努めている。希望により契約前のお試し期間を設け、家族等の安心感に繋げている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時などに現況等を十分聞き利用者、家族の求めている事は何かを把握し状況により、他機関の紹介も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑顔を大事に、利用者主体「自分らしく」を合い言葉とし、寄り添い、時にはさりげない支援をし穏やかな暮らしが保てるよう利用者との関係性の築きに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状況を報告したり、毎月の「ユニットだより」に活動内容を掲載し、担当より個々の近況を添えている。状況等により相談、面会をお願いしている。安心の暮らしには家族の協力は不可欠であることを伝えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や馴染みの方との関係が途切れないようまた、何時でも来て頂けるよう開放し支援している。年賀、カラオケ、食事等楽しませている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、和やかな、居心地の良い交流が自然にできるよう配慮し、雰囲気づくりに努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	会う機会があった時など、失礼にならない様に状況を伺ったり、相談に乗るなど関係が継続されるよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常の会話、生活状況の中から又、家族の面会時等に現在の生活についての思いや希望を伺い、アセスメントをしカンファレンスを通じて本人本位のプランに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時特に家族に協力頂き、基本情報やアセスメント情報としての生活歴、趣味などを聞かせて頂きこれまでの暮らしの継続性とニーズの把握に努めている。又面会者等からも本人の希望などのヒントを得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送り時に一人ひとりの様子について確認しあっている。また毎月のユニット会議においてケースカンファレンスを行い情報を共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画・目標は日々実施状況を記録し、毎月ユニットリーダーにより評価し、3か月毎カンファレンス、モニタリングを行い、6か月毎ケアプランの更新をしている。家族には面会時に希望等を伺いプラン作成後説明し同意を頂いている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録やケアプランの実施記録には日々の様子や気づきを書き入れ、情報を共有し、介護計画の見直しにも役立っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との関わり等、本人の要望、思いを優先している。業務に支障が有る場合は職員間の連携により業務内容の調整を図り臨機応変に対応できるよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治区の公民館活動に参加し防災訓練、地震体験など安全な暮らしに協力頂いている。散歩しながらの保育園との交流、途中の挨拶、野菜のお裾分けなど楽しみとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に主治医の選択をして頂き、何時でも変更できる。専門科については主治医より紹介して頂き、適切な対応が図られる。定期的な往診の外、通院により受診の方もいる。通院の付き添いは原則家族、状況により職員が当たる。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医院より週1回の訪問看護(サービス)をして頂いている。訪問日以外でも快く相談に乗って頂き必要あれば訪問して頂き安心して繋がっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時本人の情報提供を行い安心して治療できるよう支援している。面会に行ったり必要に応じて家族、医療機関との情報交換を行い、退院の目処についても病院と確認し合い、早期に退院ができるよう相談に努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化や看取り指針について説明し同意を得ている。その後の状況により必要に応じて再度同意書を頂く。職員研修として指針の読み合わせにより認識を高め、又看護師より介護方法・留意点等受け看取り介護等に備えた。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年間研修計画の中に急変、緊急時の対応について盛り込み、又折に触れ説明等の機会を持っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回昼夜想定避難誘導訓練を行い、内一回は消防署員に評価及び初期消火、緊急時の通報等講習を受けた。外年1回は自治区共同の地震想定避難誘導訓練に参加、また地震体験等も参加。今年は災害時の備蓄を進めた。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	公平な対応で日々気持ちよく生活して頂けるよう、折に触れて職員間で共有している。特に職員の個々の表情や声掛けを重視し、日常の暮らしの中にもプライバシーに配慮し、プライドを傷つけない対応を心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けについて命令調・肯定的な言葉でなく「はい」「いいえ」で応えられるような言葉掛けをするように研修会、会議の時などに折に触れて確認している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本理念の補足にある(我がまま(自分らしく)でいい)の中の4つの思いが謳われている。それを常に念頭に置きその人らしい暮らしの基としている。利用者のペースに職員が合わせる支援に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの衣類は自分で選んで頂いたり、おしゃれ、化粧をしていた方には今までの生活の習慣の継続を支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から方付けまでできる所は利用者と職員と一緒にやることを基本としている。食器拭き、配膳、下膳等役割りという意識を持って参加されている利用者が多い。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの希望、状況に併せた食事の摂取量水分量の確認をし必要に応じてチェック表に記入し経過観察をし食事形態等に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>一人ひとりの口腔状態や能力に応じたケアを行っている(個別のケア方法を確認し職員で徹底)。毎食後声掛け誘導をしている。週2回以上入れ歯洗浄剤を使用し清潔効果を高めている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>個々人に応じた排泄方法、場所、時間、介助方法を職員間で話し合い共有している。訴えの分からない方にはチェック表や申し送り等から排泄パターンを把握し誘導し、不快な思いの軽減に努めている。極力トイレ排泄を促している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便チェック表を細目につけ状況により医師の指示による薬のコントロールを取り入れながら野菜、海藻類、ヤクルトなど食材等の配慮また、水分摂取、体操など極力体を動かして頂くよう声掛けをし便秘予防に努めている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>利用者の希望を確認しバイタルチェックを行い入浴して頂いている。週2回以上を原則とし午後入浴をして頂いている。拒否ある場合は声掛けに工夫をしコミュニケーションを図りながら本人に寄り添った支援をし、楽しんで頂いている。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夕食後の就寝時間は自由である。一人ひとりの思いで居室に入り休まれるよう支援している。夜間不穏、徘徊等不眠が見られる方へは、その原因等を話し合い、日中の活動量を増やす等改善に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等があった場合は医院からの説明と薬の説明書を参考に理解の徹底を図っている。飲み忘れ、誤薬の無いよう職員が2人で確認し配薬から服薬まで3回確認し特に服薬時は名前、日付を確認し飲み込むまで見守っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、趣味、嗜好、習慣を参考に得意分野を取り入れるなど、気分転換を図る事で生活の張り合いに繋がるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望に沿うよう季節に合わせて、外食を楽しみながらの遠出外出をしたり、天気の良い日は敷地内の広場の散歩を楽しんで頂くよう努めている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は本人の希望により所持されている方もある。多くの方の小遣いは施設で預かっている。本人、家族の希望により使えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話を繋ぐようにしている。携帯電話を持参されている方も有る。年末には年賀状を書き職員と共に行い、家族に送っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間を通じて快適な温度設定と自然の電灯色にこだわりを持ち、目に優しい照明、夜間廊下に出ると明るく点灯し不安感、転倒回避に繋がっている。ホールには季節感を取り入れたぬり絵、折り紙など利用者の作品や写真を飾っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で話をしたり、ひとりの時間を気兼ねなく過ごされる方等、思い思いに過ごして頂くような、場所づくり、雰囲気づくりに努めている。隣のユニットとの出入りは自由で`お隣さん`的関わりを持っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活の継続性を大事にし、馴染みの有る家具、調度品を持ち込み利用者、家族の思いにより居室内の配置をして頂く事を原則として居る。寝起きもベッドの方も和式の方も同様である。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレは分かり易く大きな文字(絵)で表示している。自室の入口には表札を掲げ入口の壁には本人の描いた絵、写真等で分かり易く覚え易い工夫をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域と共にあるホームとしての役割をより深め、ご利用者にとって変化のある笑顔の暮らしの有り方を求めて行くことが必要である。	1. ボランティア(個人・グループ)の協力参加者の拡大が得られる。 2. 子ども等との交流の機会が増える。	1- ボランティアコーディネーター及び機会を見ながら折に触れて声掛け相談をしていく。 1- 自治会のボランティアの方に声を掛け、環境美化活動や行事に参加して頂く。 2- 子ども「安心の家」への登録を検討し実施に努める。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。